

「令和7年度 第2回 地下水マネジメント研究会」の開催 (R7.12.8)

- 「地下水マネジメント推進プラットフォーム」の活動の一環として、令和7年12月8日に「第2回 地下水マネジメント研究会」を開催。
- 地下水関係者間における情報共有や地域への情報提供に寄与することができる地下水データベースの活用方法について紹介するとともに、災害時における代替水源としての地下水の利用を進めるため本年3月に策定された「災害時地下水利用ガイドライン」の一部改訂の状況報告や、民間の井戸活用に関するアンケート結果を踏まえた災害用井戸の重要性と課題について説明。
- 地方公共団体を中心に、関係機関、民間企業等の地下水担当者約300人が参加。

I 開催概要

1. 日 時 : 令和7年12月8日 (月) 13:30~15:00
2. 方 法 : WEB形式
3. 主 催 : 内閣官房水循環政策本部事務局
(水管理・国土保全局 水資源部 水資源政策課)

4. 議事次第

- (1) 地下水データベースの活用方法
- (2) 「災害時地下水利用ガイドライン」の一部改訂の状況報告
- (3) 災害用井戸の重要性と課題

【大阪公立大学 遠藤崇浩教授】

- (4) 情報提供: 水循環政策の推進

5. 参加者 : 約300名

【市区町村、都道府県、国関係機関、民間企業、報道機関等】

地下水データベースの活用方法

②データ一元化による、担当者交代や関係者間における確実なデータの引き継ぎ

○従来、地下水担当者が変わったり、関係者間で観測データ等をやり取りする場合、地下水調査報告書等の紙資料やハードディスク上の保存データを引き継ぐ場合が多い。

○報告書等にデジタルデータが含まれていても、個々に保管されているため、データを統合して利用するには手間がかかるから、デジタルデータが残っていない場合もある。

○地下水データベースは、一元的にデータを保存する書庫としても活用でき、必要な井戸の必要な期間のデジタルデータをダウンロードでき、報告書等のやり取りは不要となる。

地下水データベースの活用方法

運営 事務局 佐藤直哉

事例紹介:能登半島地震

石川県七尾市における停電・断水解消プロセス

停電戸数 4500
断水戸数 4000
停電(ほぼ)解消

断水時を生き残ったせりふに
井戸は役に立ちましたか?

断水時の生活を成立させたせりふに
井戸は役に立ちましたか?

→井戸が災害後の生活サポートに役立ったことが明らかに

大阪公立大学

内閣官房水循環政策本部事務局

(2)-1 水循環アドバイザーの支援概要

水循環アドバイザーには、地方公共団体等のニーズや課題に応じた技術的支援を目指し、多様な分野の有識者を登録しており、学識者から地方公団体の職員まで様々。
また、支援内容についても、会議への出席、シンポジウムの開催、課題を抱える部署への助言など、地方公共団体等の要望に応じた内容で実施。

アドバイザー制度創設以降の支援実績件数の推移

令和2年度	3件
令和3年度	6件
令和4年度	6件
令和5年度	6件
令和6年度	14件
令和7年度	6件

登録されているアドバイザーの分布

課題を抱える部署への助言

関係者への勉強・講演会

オンラインでの助言

水循環政策の推進

井戸は役立ったのか?

生活できなかつたと思う 75%

生活できなかつたと思う 25%

非常に役に立った 77%

役に立った 22%

N=428

N=428

生活できなかつたと思う 75%

生活できなかつたと思う 25%

非常に役に立った 77%

役に立った 22%

→井戸が災害後の生活サポートに役立ったことが明らかに

遠藤崇浩・棒本貴志・谷口真人(2025)令和6年能登半島地震:災害時井戸利用に関する住民アンケート調査報告書(石川県七尾市)大阪公立大学リポジトリ

16

II 参加者からの感想

- ・地下水データベースを活用すると多くの利点があることが分かり、これから地下水マネジメントを進めていく上で大変参考になった。
- ・能登半島地震での事例調査を通じて災害時の井戸（地下水）活用の有用性や課題について情報収集することができたことは有益であった。
- ・地下水を対象とした流域マネジメントの重要性、水循環アドバイザー制度について理解できた。得られた情報を今後の活動の中で活用していきたい。